

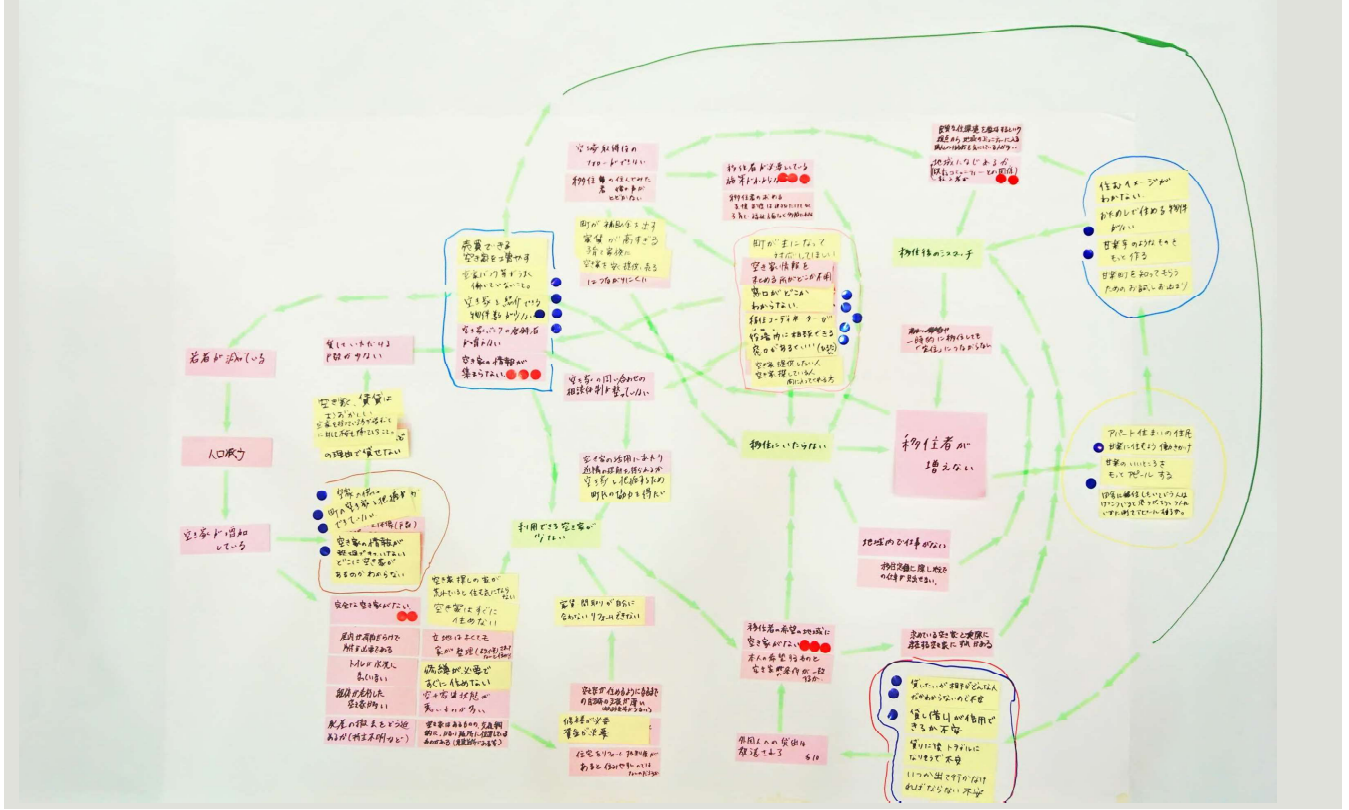
移住定住の促進（良質な住環境と空き家の活用）

自治体名

甘楽町

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのかを、「問い」のかたちにもとめました。

1 紹介できる空き家が少ない

空き家所有者世帯が、空き家バンクを利用することで、たくさんの空き家が準備でき、移住定住が進むために、何が可能か？

2 空き家を持っていても相談しづらい

空き家をどうしたらよいか解らない空き家の所有者（貸主）が、借主と移住コーディネーター等が入って、コミュニケーションを取って、不安を払拭することで、借主と貸主の目的が達成されるために、何が可能か？

3 移住が定住になるための理由がない

移住定住を検討中の移住定住希望者が甘楽町を好きになって住み続けたいと思うことで住む場所・家を探すために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

<p>移住希望者向け 広報充実</p>	<p>官民一体で、移住希望者がまちをイメージしやすいHPをつくり、全国に向け、SNS、メディア活用をし、まちのアピールをする。甘楽町を好きになって住みたいとおもってもらえるような、甘楽の良さをアピールする場をつくる。</p>	<p>市内の立ち寄りやすい場所に、官民一体チームで移住コンシェルジュ（相談窓口）を設置。わかりやすい相談窓口を作ることを目指し、移住コーディネーターとオンラインで相談できたり、セミナーなどを開催する。また、空き家バンクを利用するメリットを知ってもらうために、新聞、広報など、さまざまな方法でアピール。相談があった場合に、町の特産品を渡すなどして、町のことを知ってもらう機会をつくる。</p>
<p>おためし住宅</p>	<p>町内各地域で移住コンシェルジュを設置後、おためし甘楽町住宅をつくる。オーダーメイドの移住体験ツアーをしたり、炭づくり体験や瓦焼き体験、観光タクシーやレンタル自転車を使って体験、おためし移住を行う。</p>	<p>定期的な町内全域で役場と区長などが空き家の調査を行う。調査の際には、空き家の写真だけでなく、周囲も撮影する。また、閲覧板で空き家バンクの登録を呼びかける。</p>